

新元号『令和』の出典は、日本の古典「万葉集」。

『令和』の時代には、日本の古典もたくさん読み、日本の心に親しもう

開倫塾

塾長 林明夫

Q：新元号が「令和」になりますね。

A：(1)はい。天皇陛下が生前退位をなさるため、皇太子さまが新天皇に即位なさいます。それに伴い、5月1日に、元号が「平成」から「令和」になります。

(2)今までの元号は、明治・大正・昭和・平成も含めすべて中国の古典が出典でしたが、新しい元号の「令和」は、初めて国書、日本の書物からの出典でした。

(3)新元号の「令和」は、日本最古の古典である万葉集の「初春の令月(れいげつ)にして 気淑(よ)く風和(やわら)ぎ」が出典でした。安倍首相は「令和」について、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められている」とご説明されました。出典とした万葉集に関しては、「我が国の豊かな国民文化と長い伝統を象徴する国書だ」と述べられました。素晴らしいと思います。

Q：「令和」の出典は万葉集ですか。万葉集を読んでみようかな。でも、ちょっと難しそうですね。

A：(1)一度、図書館か本屋さんに行き、万葉集の「文庫本」を探して手に取り、「現代語訳」を見ながら、前のほうからでも、真ん中からでも、後のほうからでも何ページか読んでみてください。

(2)万葉集の全部を一気に読み通すこともよいですが、人生は長いですから、時間をゆっくりかけて、行きつ戻りつしながら、少しずつ一生かけてお読みになることをお奨めします。古典とはそのようなものです。

(3)万葉集の一句、一句をじっくり読むと同時に、万葉集が書かれた前後の日本や中国の歴史の勉強も少ししてくださいね。万葉集に「防人の歌」がなぜ入れられたかを理解するには、中国や日本の歴史を知るとよいですよ。

Q：「令和」の時代にしたほうがよいことは何ですか。

A：(1)来年2020年は、日本の第2次世界大戦の敗戦から75周年となります。

(2)終戦後は、日本の歴史や文化・伝統・様式はすべて否定され、ゼロからスタートしました。

75年経ちましたので、そろそろ本格的に、日本の歴史や文化・伝統・様式にもできるだけ関心を持ち、理解を深めてもよいのではないかと考えます。日本のよさ、地元のよさ、アジアのよさにも、もっと注目してよいと考えます。

(3)日本には、万葉集の他にも、世界に誇るべき古典が時代時代にたくさんあります。俳句の古典もあります。文学作品だけではなく、舞踊や演劇・音楽、絵画や彫刻、建築、街づくり、モノづくりにも、時代時代の古典があります。日本は、実は、世界でも最先端の文化・芸術国家なのです。アップルの創業者スティーブ・ジョブズがスマホを作るときに参考にしたのは、日本の宮大工の匠（たくみ）の技でした。

Q：最後にひとことどうぞ。

A：(1)では、古典として何を読めばよいか。お奨めは、各教科の教科書で紹介されている本です。実は、古典は各教科にあります。各教科の教科書で古典と思われる本の名前が出てきたら、図書館や本屋さんに行ってその本を手に取り、たとえ1行でもよいから原文を読んでみる。現代語訳があったら、それも読んでみることです。

(2)多くの古典は、「文庫本」に入っています。カバンの中に、いつも1冊はお気に入りの古典を入れ、折に触れて行きつ戻りつしながら、少しずつ考えながら読む。著者と、「時空を超えた対話」を楽しみながら、毎日、日本の古典を読むことです。

(3)外国の古典にも、面白くてためになるものがたくさんあります。日本や世界の古典に慣れ親しみ、「令和」の時代を過ごしましょう。